

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900378		
法人名	医療法人 寿栄会		
事業所名	グループホーム 笑顔		
所在地	福岡県小郡市三沢528-3		
自己評価作成日	平成27年8月13日	評価結果確定日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

笑顔では目標を「利用者さんがのんびりと楽しく過ごしていただけるように、環境を整え、寄り添い、共感し利用者さんそれぞれに合わせた介護」を心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	H27年9月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム笑顔」は、母体の医療法人の広い敷地内にあり、病院やデイケア棟やおおぞらホール(多目的ホール)と併設されている。静かな環境の下、敷地内の散歩も多く行われ、日常的に病院の売店に買い物に行くことも出来る。母体事業所で、毎月の合同研修会や合同で消防訓練や夏祭りが開催され、地域感謝祭等も盛大に行われている。深夜の入居者の急変時も当直医が対応し、災害時の協力体制の構築もできており、毎月訪問看護師で体調管理も行なわれ安心して暮らせる環境が整えられている。職員のほとんどが正社員で資格取得に向けての意欲も高く、長く努めている職員も多いためコミュニケーションもよくとられ、入居者思いでぬくもりに溢れている。理念や事業所と同じ「笑顔」が絶えない、笑い声がいっぱい聞こえている事業所で、入居者の表情も明るい。これからも地域との連携に積極的な取り組みが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己		項目	自己評価()	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各人の名札の裏に、理念、目標を入れ毎朝朝礼時に唱和し共有を図っている。唱和する事で常に振り返ることが出来、自己を省みる機会となっている。	地域密着型サービスとなった時に法人の理念を取り入れ、職員全員で考えて事業所理念を作成した。職員は理念を名札に入れて、毎朝唱和する事で理念を周知している。毎年グループホームの年間目標も決めて取り組み、地域と結びついた生活環境を大切に、笑顔とぬくもりのある穏やかな毎日を支援されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(初午祭、夏祭り等)入居者様と参加し、寿栄会の夏祭りや地域感謝祭には地域の方々をお呼びし交流している。	母体事業所と一緒に敷地内で夏祭り等が開催され、併設のおおぞらホール(多目的ホール)で地域の方との交流も行われた。事業所では地域のボランティアや地元中学生の職場体験学習も受入れており、キャラバンメイトの資格を持つ職員が地域の高校で「認知症とは」等の講義を受け持ち、地域との交流に努めている。	母体病院を通しての地域交流は盛んに行われており、事業所独自に地域の高校で講義も行われているが、今以上に事業所を認識してもらう為にも、事業所独自で地域の人を呼んだり、キャラバンメイトの資格等を生かして、講演会等を開催して交流を図り、地域に発信されて行かれる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポート研修参加や認知症相談窓口を設けている。老人会で認知症に対する勉強会等に参加し、施設長が講演などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの方が参加し易い様、日程調節を考慮し事業所の行事や運営状況報告、地域の行事、情報等を取り入れ活発に意見交換等を行っている。	定期的な運営会議の開催で、消防訓練と組み合わせで開催したり工夫をしている。理事長、介護保険課、民生員、家族代表や入居者代表等の出席で、状況報告や行事報告等を行いアドバイスも頂き、民生員からボランティアの紹介や地域行事の誘いもある。運営会議議事録は年3回開催の家族会で家族に渡したり報告をしている。	運営会議議事録は出席者には配布されたり、年3回の家族会で配布や報告もされているが、会議開催予定日や会議開催内容等の情報を伝える事で、家族の参加を増やしたり情報を得る事を試み、年1回程度は家族会と一緒に取り組み等も考えて、事業所の運営に役立てられる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険研修に参加している。運営推進会議に参加していただき、サービスに関する問題などについて相談している。	包括支援センターの職員とも顔見知り、生活保護課等とも自立支援等で相談もしている。市役所や介護保険課等とは日常的に交流しており、介護保険の説明会に参加し、研修案内等の連絡を受けたり、運営推進会議にも出席して貰っており、円滑な協力体制の構築は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会を通じて、身体拘束に関する認識を深め状況に応じて家族に相談している。併設病院売店に一人で買い物に行かれる利用者様もおられ、日中は施錠しないので利用者様は自由に出入りできる。	年1~2回外部研修に参加し、その後内部に伝達研修を行い、職員全員が身体拘束の理解を周知しており、「待つ」と言う言葉も言わない様にし、他職員で対応している。家族希望で、車椅子でずり落ちで骨折の危険性のある入居者に車椅子で腰ベルトを使用しているが、同意書や経過支援も作成し、家族に随時報告も行われている。	

H27自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止フォーラム等に参加しスタッフ間でも勉強会を行い、入居者様同士のトラブル等も無い様に努め、スタッフ間でも情報共有し理解を深め、権利侵害等無い様に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時家族に対し制度の説明を行い、相談があった場合その都度対応し、職員は何時でも対応できるようにしている。	自立支援を利用されている入居者が1人おり、事業所に入居されてから成年後見人制度を利用された方もいる。定期的に外部研修に参加し、内部に伝達研修を行っており、パンフレット等も設置し職員から説明を受ける事もでき、その後、管理者へ繋げ利用できる体制が整えられている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時十分な説明を行い不安や疑問点について理解していただき、何か疑問等あればその都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の相談窓口を明確にしており外部の相談窓口ポスターも掲示している。家族訪問時しっかりとコミュニケーションを図り意見を引き出している。家族会を定期的に開催し意見や要望を聞いている。	毎年1回家族アンケートを行ったり、年3回の家族会や面会時に聞き取りし、意見の抽出等を行い、アンケート等の集計結果も家族に渡している。個別での家族の意見に対応した時はその都度、来訪時に結果報告も行なわれている。	年1回のアンケートの集計結果を報告したり、個別対応した時は該当家族に報告が行われているが、取り組みや対応の結果報告が家族全体には行われていない。事業所の取り組みや対応状況を報告する事で、事業所の取り組み状況や良い点を知って貰い、新たな意見の抽出に繋がる事に期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について困難が生じた場合、その都度意見や提案を聴く機会を設け、寿栄会の役員に意見や提案を述べる機会を持っている。	職員同士のコミュニケーションもよく取られ働き易い職場で、職員の意見も言い易く、先輩職員等からの意見やアドバイスも貰っている。入居者の事での気付き等も相談するとすぐ対応され安心でき、備品等の購入も管理者に相談し、すぐ購入が出来ており、意見や要望も反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は個人目標をもとに個人面談を行い人事考課を本部に提出し昇進、昇給等を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層が勤務しており、職員募集にも年齢性別を理由に採用対象から外すことはしていない。人間性重視の採用をし無資格者には資格取得に向け休みの調整や先輩の教え等ホーム全体で支え資格取得後は手当支給等意欲を持って働けるよう配慮されている。	20～60歳代の幅広い職員がおり、長年勤めた職員も多く、資格が無い職員も、ほとんど正社員として採用されている。資格取得に向けての研修も積極的に薦められ、協力体制も整えられており、休み等のシフトも調整されている。食後の休憩も交替で休憩室でとれ、職員同士も仲が良く、働き易い職場である。職員が個人目標を設定し年2回管理者等の個別面談の機会も設けられている。	

H27自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が小郡企業内人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり年に2～3回の研修に参加し、入職時に理念、人権啓発、尊厳、人間尊重の意識付けを行い、個人情報、守秘義務の遵守について説明を行うなどして職員への人権教育をしている。	管理者が人権同和問題研修推進委員会のメンバーであり、日頃より人権研修会の案内は来ており、研修会に参加終了後は朝礼等で報告を行っている。接遇マナーは母体事業所での外部講師による研修会に参加したり、内部への伝達研修を行っている。日頃のケアの中で、気付いた言葉掛けや行動などに関しては、その都度注意し合っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体に人材育成室がありレベルに応じた研修に参加し勉強している。介護支援専門員、介護福祉士、認知症実務者研修等希望があれば研修を受ける機会を与え、情報があれば提供している。市や医師会の介護研修や併設病院研修にも参加している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小郡キャラバン隊研修や小郡三井地区介護保険研修会等に参加し同業者と交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントや日々の生活の関わりの中で、会話や表情から利用者様の希望や意向の把握に務め、主治医、家族にも相談している。意思疎通の困難な利用者様には、家族や関係者の方からこれまでの暮らし方等情報を得るようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望者様やご家族様にホーム見学時、お茶を飲んでいただきながらレクリエーションなど無理なく参加していただき雰囲気を感じてもらう。入居者様が一日でも早く馴染んで頂く様他の入居者様やスタッフと一緒に馴染みの関係を作り職員家族と話し合いながら進めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を聞き、計画作成担当者を中心に職員で話し合い介護計画を作成している。家族の意見も取り入れ計画を説明している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から生活歴を伺い、特技や趣味などを通じアドバイス受けるなど関係を築いている。又、利用者様からの言葉掛けに元気をもらうこともある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などにて家族の方に近況報告をし、第二の家庭としてゆったりと過ごして頂く様生活支援の共有を行っている。無理の無い様外泊・外出等を勧めている。		

H27自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価()		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭り、敬老会等の催し物に参加したり、外出やレクリエーション等で馴染の場所へ行ったりしている。面会時間なども制限しておらず、地域や家族の面会を楽しみにしている。	入居当初に生活歴を聞き取っており、ドライブに行った時に馴染みの所に寄ったりしている。家族と一緒に以前から利用している理美容等に行かれています。母体事業所で年4回「ひだまり」と言う地域コミュニケーション情報誌も発刊されており、事業所で月1回の請求書の発送時に入居者の近況を書いた手紙を添えて一緒に送りついでいる。月1回は事業所に直接支払いに来て貰っており、入居者との関係の継続支援に努めている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に孤立しない様、ラジオ体操等毎日ホールへ集まる時間を作り、話題を提供し、利用者様からの言葉を引き出している。声掛けにより、スタッフが中に入り支え合えるよう努めている。			
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院や協力病院に入院された方などには面会に行き近況を聞いている。家族とも連絡を取り合い、関係を保っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントや日々の生活の関わりの中で、会話や表情から利用者様の希望や意向の把握に務めている。生活歴や最期は何処でどのようにと言う事まで聞いている。意思疎通の困難な利用者様は家族や関係者から情報を得るようにしている。	暮らしの情報を聞き取りしてアセスメントシートを作成し、意思疎通の難しい方には、職員全員で情報交換したり、日頃の表情や言葉で思いを汲み取り、家族の要望や意向を聴き取って把握するようにしている。往診の医師等から聞き取りも行ない、本人本位の意向の把握に務めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や友人、病院等から生活歴やこれまでのサービス利用の情報を得、サービス利用に活かしている。			
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の記録を付けて、一人ひとりの状態の把握に務め、心身状態にあったケアをしている。			
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、計画作成担当者を中心に職員で話し合い介護計画を作成し家族にも説明し協力を得ている。	入居者1人に職員1人担当し、3カ月に1回、ケアマネジャーがアセスメントシート表を作成し、モニタリングは担当職員とケアマネジャーで職員全員と情報交換を行っている。家族からも聞き取りしてケア会議を開き、3カ月に1回や状態変化時に介護計画を変更し作成している。	ケア会議が職員やケアマネジャー等で行われ議事録も作成されているが、更新時等の家族からの意向の聞き取り内容や、医師等からの病状等の聞き取り等の記録が入っていない為、内容等を記入して、含めた内容でケア会議を開催される事が望まれる。	

H27自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。状態変化が生じた場合は、家族や関係者間で話し合いを行い、現状に即した新たな計画を作成している。個人日誌に個別に気づきや工夫を記入し伝達、共有し見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じて、病院受診支援や入居者様のその時々希望や要望に応じて、美容院やショッピングセンターへの買い物支援等を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議を行っている。区長、老人会長、民生委員の方々に協力していただき、地域の方々から情報を得て花見に行ったりお祭りに参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を重視しているが、同一敷地内の母体への変更希望があり、ほとんどの利用者様が母体の病院受診してある。家族同伴の受診支援や、グループホームへの往診によって適切な医療が受けられるように支援している。	入居前からの掛かりつけ医の受診も可能で、他科受診も家族や施設職員の送迎で受診できる。隣接の母体病院の各月2回の内科や精神科の往診があり、訪問看護師による健康管理が行われ受診表に記入し、申し送りノートで受診の結果等の情報を共有して対応している。深夜の病状変化時も母体病院の当直医の対応で安心して暮らす事が出来る。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づいた情報を併設病院の外来グループホーム担当ナースに情報共有し支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院へ外来受診に行っているため入院も同病院で行っている。その為、笑顔、外来、病棟との情報共有し情報交換を密にしている。他病院への入院時も家族と面会に行ったり、医療連携室と連絡したりしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合について対応を説明、出来る限りグループホームで対応し医療が必要となった場合、主治医と家族との話し合いで係りつけ病院か母体の病院へ移る。	当事業所では医療行為が出来ず、終末期の看取りは行っていない事を、入居当初に説明している。重度化された時に医師と一緒に話し合いを行い、8割は隣接の母体病院に入院されている。入院中も職員が洗濯物を取りに行ったり、顔を見に行ったりしており、1~2週間で状態が落ち着いた時は再入居も出来ている。	

H27自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って、新入職者があった時点や必要に応じて勉強している。併設病院での研修(AED操作方法、救急蘇生法)に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火、避難誘導、通報訓練など年に3～4回行い消防署の立会のもと指導を受けている。併設病院の多目的ホールが市の福祉非難所に指定されているためそこまでの避難訓練も行う。年末に地域消防団とも交流し巡回等お願いしている。。	母体事業所と一緒に年1回、全体での避難訓練があるほか、事業所独自で昼夜想定し避難訓練も年1～2回行っており、内年2～3回は消防署立会いがある。終了後は次回に向けての反省会を行っており、母体事業所の支援体制も確立されており、母体事業所で現事業所の分も含めて、2日分の備蓄も準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に尊厳ある生活が出来るように支援する事が明示されているように、本人の誇りやプライバシーを損ねるようなことは特に留意している。夜間のみ自室で使用されるポータブルトイレは日中部屋に置かないようにしている。個人記録は事務所で記録し鍵をかけ保管管理している。	母体事業所で外部講師による接遇マナーでの研修会があり、職員もほとんど参加しているが、参加出来なかった職員に対しては、内部伝達研修を行っている。排泄時はさり気ない言葉や声掛けを行い、他入居者等に気づかれない様になっている。フロア内では写真は飾られていないが、口答で家族等に写真の同意を取っており、自室内に誕生会等の写真がにぎやかに飾られ、来訪時に見て貰っている	写真を掲載したり飾る時には家族や入居者にその都度、写真の同意を取られているが、中学校の職場体験等もあり、今後の入居者の写真の利用等を考慮し、写真の同意をその都度取る事の簡略化を図る為にも、写真利用も含めて同意書を取られてはどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定例食事会の催しや、おやつ等入居者様の好みに合わせ希望の献立を提供している。昼食はスタッフ入居者様と一緒に和やかな雰囲気でお話も弾み楽しい食事が出来ている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、起床時間や食事時間、入浴時間等制限しないでその人のペースを大事にし何事も強制しない支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前の暮らし振り等を家族に尋ね、入居者様の好みの服を着ていただいたり、化粧の声掛けなどの支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度入居者様の希望を聞いて献立をたて食材購入し料理をしている。もやしの根取りや洗い物、おやつ作り等スタッフと一緒にしている。スタッフも入居者様と同じものを同じテーブルで穏やかに会話しながら共に楽しんでいる。	母体病院の管理栄養士による半月分のメニューが作成され、職員が病院に食材を取りに行き、2ユニット合同でその日の担当職員2人と入居者が下ごしらえや茶碗洗い等を手伝い調理している。毎月1日は赤飯があり、事業所の畑で収穫した野菜等も取り入れたり、月1回は献立を止めて、入居者の食べたい物を事業所で購入し調理している。月1回は2ユニット全員で花見や買物に行き、外食もしており、日曜日に手作りのおやつ作りをする事も多い。	

H27自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価()		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に病院の管理栄養士がカロリーを計算し献立をたてている。入居者様の状態に応じて刻み食、ペースト食等対応している。毎日食事摂取量、水分摂取量をチェックし記録している。食事摂取量が少ない方などは栄養サポート食品なども使用している。			
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、歯磨きを実施している。入居者様の状態に応じて出来ない方は介助している。			
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様各自の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。個人の尿量に合わせて紙パンツ、尿取りパット、ナプキン等を使用している。	排泄チェック表に入居者の排泄状況を記入し、自立した方も部屋に聞き取りに行き、排泄状況を管理している。周りに聞こえない様にさりげない声掛けで誘導し介助しており、職員間で介助方法を話し合い、申し送りノートで共有している。改善の結果、夜間オムツの方も布パンツとパット使用となったり、リハビリ紙パンツ使用の方が布パンツとパット使用になったりと負担軽減につながっている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響などを理解し、便秘予防の為に、適度な運動や、十分な水分補給などを行っている。好きな飲み物等を提供し、個人に応じた緩下剤などを使用している。			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3日としているが、毎日でも可能としている。入浴時間などの制限もしていない。入浴拒否などある方は無理の無いように声掛けし入浴していただいている。	個浴で湯は毎回入れ替えており、好みの湯温で入浴でき、好みの石鹸やシャンプー等の持ち込みも可能である。毎日の入浴や、1番風呂や夕方の入浴希望にも対応できる。車椅子利用等の介助の必要な方には、職員2人介助で抱えて対応し安全な介助を行っており、皮膚等の健康管理を行い、乾燥肌等は看護師の指示で軟膏塗布を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な安眠が取れる様日中は運動や散歩、レクリエーション等を日替わりで行っている。居室の温度調節や個人に合った寝具等を使用している。			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方や、効能、副作用について勉強会を行っている。処方変更等あれば申し送りノートに記入し全員に周知している。大きな錠剤などは粉状にして服用しやすくし、服用後口腔内確認をしている。毎日のバイタルチェックをしている。			
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意なこと、趣味などを把握し、食事作りの手伝い、後片付け、生け花、草取り、洗濯物片づけ等気分転換や楽しみごとの支援をしている。			

H27自己・外部評価表(GH笑顔)

自己	外部	項目	自己評価()		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体の病院グラウンドが隣接している為、日常的に散歩している。入居者様が車いすの入居者様を押ししたりとゆっくりと散歩を楽しまれる。病院の売店に出かけたり、月に1回程度の外出買い物やお楽しみ昼食会を楽しまれている。	車椅子の入居者も一緒に、週の半分は敷地内をゆっくりと散歩を行い、ベンチに腰掛けて、桜や紫陽花等を見たり、敷地内の母体病院の売店に買い物にも行っている。月1回は2ユニット一緒に花見等の外出や、外出に行っており、母体病院所有のマイクロバス等で遠方への外出も多く楽しみにされている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じて各自お金の所持ができるように支援している。。買い物や外食時本人がほしいものを選んだり食べたりできるよう支援している。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて本人自ら電話を掛け家族や友達と話が出来る。希望される方には年賀状を用意したり手紙を出す支援をしている。			
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは中庭に面し間取りも大きく明るい作りで、天井も高く圧迫感を感じない。ユニットを仕切っているドアを開放するとゆったり過ごせ、玄関やリビングに季節に応じた花などを飾っており、季節感と共に居心地良く過ごせる工夫をしている。又中庭には季節季節に花が咲く木を植えている。	両フロアを中心に左右対称の2ユニットの事業所で、明るい木造りのフロアで、高い天井にはシーリングファンがゆるやかに回り、壁には大きな立派な絵画が掛けられ、観葉植物も多く落ち着いた雰囲気である。ゆったりしたソファや、1畳の畳みが設置され、座って洗濯物を畳んだり、腰かけて和の雰囲気も楽しめる。広いテラスにはテーブルが置かれ、庭の中央の大きなもみの木のシンボルツリーはクリスマスのイルミネーションが施される。12カ月と関連する12種類の季節の木々も植えられ折々の花見が楽しまれている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食時の席以外、ソファや畳があり自由に使えるようにしている。			
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスはホームが準備しているが、本人が使い慣れたテーブルや椅子、仏壇等置かれレクリエーションで作った作品や写真などを飾られ個性が出た部屋になっている。	居室前の廊下も天窓から太陽光が明るく注ぎ、居室内も明るい木のフローリングの床材が使用されている。持込みは自由で、使い慣れたベットを持ち込まれている方もおられ、写真も多く飾られ、ぬいぐるみや冷蔵庫等の持ち込みもあり、其々の雰囲気部屋づくりがされていた。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レクリエーション時、一人ひとりの趣味を生かすスタッフと一緒に個人に応じた対応をしている。			